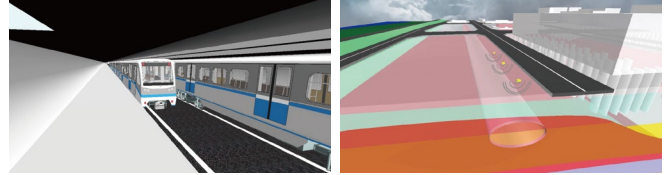


現状と課題

地下空間を利用した社会インフラの建設事業においては、建設時に遭遇する複雑な地質・地盤構造に起因するさまざまなリスクが存在しています。



3次元常時微動トモグラフィ

S波速度⇒地盤の固さ地質の特性(固さ)を把握することが可能!

手法の概要とイメージ

微動
探査風景

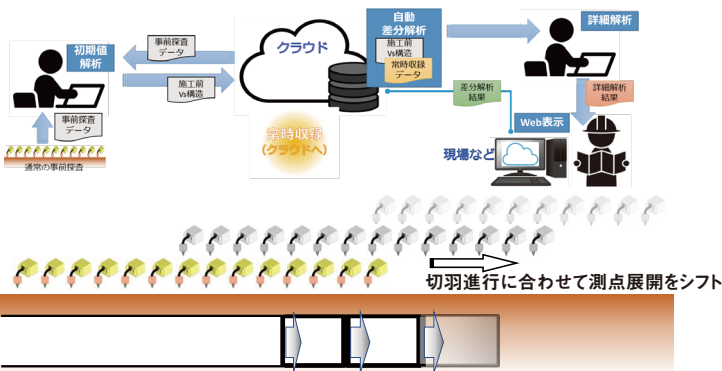
解析結果事例

3次元
S波構造モデル
断面スライス

市街地での地下空間を対象としたインフラの建設事業においては、建物や既存のインフラなどが障害になり、十分な事前調査ができないケースがあります。

3次元常時微動トモグラフィ技術は、小型の地震計を道路の端部や建物等施設のわずかなスペースに設置するだけで直下の地質構造が把握できるため、用地に制限のある市街地での地盤調査に最適です。また、測定器の内部にはGPSが内蔵されており、測量によって測線を設定する必要はなく、限られた用地を用いて不規則な配置で測定器を設置しても3次元での地質構造を取得することが可能です。

施工中の地盤強度の変化など施工管理にも有効



3次元微動トモグラフィは、施工管理としての地盤モニタリングにも活用できます。地盤に発生する緩みなどを早期に把握し迅速な対応を可能とします。

施工前のデータをもとに、施工段階での差分解析を行うことで、地盤の緩みや異常を検知します。

応用地質の豊富な地盤評価技術

トンネル点検

空中電磁探査

自然由来重金属対策

路面下レーダ調査

衛星画像解析

地下水解析

3次元微動トモグラフィは、施工管理としての地盤モニタリングにも活用できます。地盤に発生する緩みなどを早期に把握し迅速な対応を可能とします。

施工前のデータをもとに、施工段階での差分解析を行うことで、地盤の緩みや異常を検知します。